

令和4年天皇誕生日祝賀
丸橋駐アンゴラ大使メッセージ

2022年2月26日

2月23日は天皇徳仁陛下の62歳のお誕生日です。日本は慣例として天皇陛下のお誕生日をナショナルデーとして全ての在外公館でお祝いをしてきました。残念ながら引き続き本年も、新型コロナウイルスにより、大使館主催のレセプションは開催できません。よって、紙上でのご挨拶に代えさせていただきます。

まずは、長きにわたるアンゴラ政府の新型コロナウイルス感染対策への努力、及びコロナと戦っておられる全ての医療従事者の方々に敬意を表するとともに、犠牲になられた方に哀悼の意を表します。

天皇陛下は、日本国憲法で日本国及び日本国民統合の象徴と定められており、政治的役割はありません。徳仁陛下は2019年5月1日に即位され、日本では「平成」から「令和」に年号が変わりました。「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。天皇陛下は皇后陛下とともに、この令和という年号のように、常に日本と世界の平和と繁栄を願われています。天皇陛下には多くの象徴としての公務がありますが、その一つに外国からの賓客をもてなすことがあります。2019年8月にTICAD7出席のため訪日されたロウレンソ大統領も徳仁陛下とお会いになっています。

昨年2021年は日本とアンゴラの外交関係樹立45周年でした。日本はこれまでに、JICAや国際機関等を通じて地雷除去、保健、人材育成等の様々な分野で支援を行うなど、長年にわたりアンゴラとの協力関係を築いてきました。昨年、新たなパートナーシップとして加わったプロジェクトの中で特筆すべきは、日本企業（トヨタ通商・東亜建設）のコンソーシアムによるナミベ湾包括開発計画です。総額約6億ドルにのぼるこのプロジェクトは、ナミベ港とサコマル港を拡張・改修するもので、アンゴラ南部における物流を大きく改善し、ナミベ州を中心とするアンゴラ南部地域の経済開発に大きく裨益することが期待されています。昨年7月にアブレウ運輸大臣とナミベ州のマンゲイラ知事出席のものとはファースト・ストーン・セレモニー（定礎式）が行われました。

コロナ支援では、日本政府は、6月にGabiと共催でワクチンサミット（オンライン）を開催し、菅首相（当時）はCOVAXに対して合計で10億ドルの資金援助を発表しました。この会合にはロウレンソ大統領も出席されました。年末には、当地ユニセフと協働で、ラスト・ワン・マイル支援として、ワクチン保管のためのコールド・チェーンの機材支援を行いました。

昨年日本で行われた最大のイベントは、なんと言っても東京オリンピック・パラリンピックでした。コロナ禍のもと、そもそも開催の有無について賛否両論の議論もありましたが、大会関係者と選手の心がけにより、コロナ禍に負けず、立派な大会が開催され、参加選手の素晴らしい活躍に世界中が感動しました。熊本県玉名市がアンゴラ選手団のホストタウンとなったことから、開会式で、美しい民族衣装に身を包んだアンゴラ選手団が玉名市のご当地キャラクター「たまにゃん」マスクを着けて元気に入場した姿は私の目に焼き付いています。

さて、本年は、日本が、AUC、国連等と共催で、アフリカ開発を支援するため1993年に開始したアフリカ開発会議（TICAD）の年です。第8回目にあたる今年の会合は8月末に開催されます。前述のとおり、2019年に日本の横浜で開催された第7回会合にはロウレンソ大統領が参加されました。今回もアンゴラからハイレベ

ルの参加を期待しています。コロナ禍の行方が予断出来ない中で開催されるT I C A Dでは、ワクチンの公平な配布やラスト・ワン・マイル支援の継続に加え、永続的な健康を確保すべく、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の一層の普及に向けた支援が議論の大きな柱のひとつとなるでしょう。また、ポスト・コロナを見据えた持続可能で包摂的な経済成長とアフリカへの民間投資促進に向けた議論が期待されます。

最後に、天皇皇后両陛下のご健康と皇室の弥栄をお祈りすると共に、一刻も早くコロナが克服され、世界中の人々が自由に往来できるようになり、活気のある生活が戻ることを願いたいと思います。